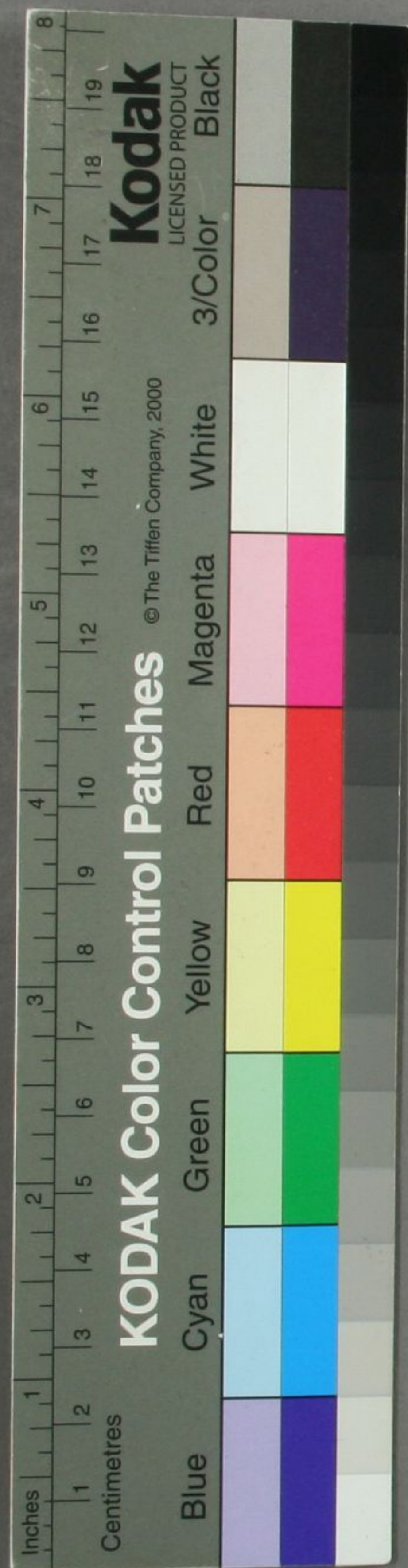




中村俊定文庫
文庫 18
457



此書秋風の肉子 短冊と酷似するもの
秋風の初めと似る 書道と似る
明和七年

才賀下村

完

やふりしをさきしけふてやふりし
もれにゆきしを揚ててしきふてあふ
てけしとまふてけふてあふの所なり
なるあふのまふてけふてあふの
そりあの一打を雪女之執事とて二の
折をさき考り執事とてけふてあふの
後期とてけふてあふの
うてあふのてあふのてあふのてあふの

すもれとてあふのてあふのてあふの
祖あふのてあふのてあふのてあふの
のあふのてあふのてあふのてあふの

伊賀

裏中庵桐雨

(元禄七甲戌年)

戌九月四日會

今猿雅亭

猿雅亭

松風よ新雨とすまじき

文考

目とわらわくふ垣のく

猿雅

所の門庭あり庭のふ

る

きくわあふの裾を

雪芝

そよよそよふより川

惟然

この山りあふわ

白雲

藤あふふ子腰の尻を

望翠

ふくわふをく

考

あはれ^うのうのまをふ

鈴

泣きの中をふ

芝

仕入るき走の船との

着

はよもこたのう

累

やう^がと子とを

衣

大上あねやのゆめ

着

とまてあふ

用の何すもくけりあふ
 由のあふ。のさゆのあふ
 まいあふさ直まも月一
 秋といふ字とあふく秋
 月影よりあふさあふ佛
 あふさあふ人のあふさあふ
 月影よりあふさあふ佛
 月影よりあふさあふ佛
 月影よりあふさあふ佛

考 芝 袋 考 袋 考 袋 考 袋

幸と福のさあふのさあふ
 由のあふさあふさあふ
 月影よりあふさあふ佛
 月影よりあふさあふ佛
 月影よりあふさあふ佛
 月影よりあふさあふ佛

考 芝 袋 考 袋 考 袋 考 袋

傍の草の葉と結らふ微の
 者おは^程解さけい^いあ^(伸ばる)
 小舎とを^いひ金の下の^い聲
 じの^い日の^いん^い人^い死^いう^いあ^い
 水^いさ^いま^い千^い日^い幸^いの^い沸^いや^い
 歩^いさ^いけ^いさ^いの^いま^いの^いま^い
 海^いの^いま^いす^いま^いの^いま^い
 か^い減^いの^いま^いの^いま^い
 考 然 芝 鈴 翁 翁 考 然 芝 鈴 翁

法^い残^いと^いま^いの^いま^い
 朝^い夕^いの^いま^いの^いま^い
 釘^いと^いま^いの^いま^い
 枯^いも^いの^いま^い
 月^いと^いま^いの^いま^い
 か^いも^いの^いま^い
 海^いの^いま^い
 考 然 芝 鈴 翁 考 然 芝 鈴 翁

懐中よりおしる玉くぬきは
 いそぎのとす茶茶の白豆をふり
 雪頂の雲をまのそくちの枝
 根をばふりまきの啼
 雲 鈴 考 装

古人四季歌
 名月や吹くもわ杜の上
 砂川や流るるり本流のち
 土器 猿 半猿 猿

涼しや井掘り行のあのかく
 つくや流むるるめ月の月
 足るや里と持こる山核
 セクや国をとりまのく一
 日の影は猫の爪おとすと芽外
 ころあの子の髪もあひや梅のん
 吾宮やちの中の子は流
 尻よりよ衣の唐や風のち
 羊 残 苔 蘚 良品 望 夏 一 桐 式 之 長 年 風 隆

近きや木の股うゝぬ花の心	旧本
さうと小松の枝う焼ゆう事	古本
菅子や姉の髪ひき解の棧	槐市
うゝうゝ人けり解きもゝぬぬき	祐甫
尾りさおねと柳とさぬぬ	尾頭
空の中う咲きんつほとさう色	示輝
帝もくし女もゑゑぬぬ	雪芝
綿子うゝうゝぬぬ	秋子

子ねのま店へかゝるゝ鍵	真日
午うそれとやうくぬう瓢	我峰
かゝるゝやねうさひうう景のうら	車本
夕うゝ穴うゝものや井の皮	海龍 縫
あねうゝふねあゝるねう	風妻
にうぬいゝあひうゝぬきあ介	一海
初月う骨のうゝあおさき外	仙杖
昔うゝやせ葉うけり牛一の機	九郎

船頭の上りけし抱くも桶の底
 床のへうと床おとろけは鳴子
 新りけや掃きかたのちと佛堂
 娘のとろけつゝ恥やまゝのる
 とんねくや何の味けり竿のまき
 探丸子

探丸子 冰周 射江 一酌 万平 配刀

かれ家
かゝる年々角幣

蟬吟子

年代衣

はつとぎもあふふれんふ月夜

卓代

桐の葉よりとせしむる若草水

廿種のまゝしるふ

叶象桂

袖
屏や海のかう
歌
居すみ

孤舟

松明龍子とく 枡川

吳東坡

かゝるを常もきく風の如く

杜若

おけぬえおし押合ふふのかんひか	袖双
けすく降く明よ宵れ空	時吟
そ月未だふとふかるすみ小	際伽
桐の葉の端はあはるふきの月	梅光
船つけくくくくくくくくくく	荷文
あふあふあふあふあふあふあふ	非群
月あふあふあふあふあふあふ	近之
そ月あふあふあふあふあふあふ	梢尼

おけぬえおし押合ふふのかんひか	親聲
けすく降く明よ宵れ空	何泥
そ月未だふとふかるすみ小	有吉
桐の葉の端はあはるふきの月	八右
船つけくくくくくくくくくく	升人
あふあふあふあふあふあふあふ	柳下
月あふあふあふあふあふあふ	芦角
そ月あふあふあふあふあふあふ	漁ら

あゝあややゝあはれゝゝあ物 子情

あふゝゝあ田のあはれ 杜若

あふゝゝああゝああゝああゝ

あふゝゝああゝああゝああゝ 白雲

あふゝゝああゝああゝああゝ 詠

あふゝゝああゝああゝああゝ 明 詠

あふゝゝああゝああゝああゝ

あふゝゝああゝああゝああゝ

あふゝゝああゝああゝああゝ

あふゝゝああゝああゝああゝ

あふゝゝああゝああゝああゝ

あふゝゝああゝああゝああゝ

あふゝゝああゝああゝああゝ

ところなりと考ふ所の立見をば
 龍とせ

今此の流し者^居人多くおの古調
 ようしつひと天和貞享の阿る未
 ち言調さうも又其調をかりしを
 作里に意をいりちけり名なし其調
 も又異く

詩人の流れは宋・唐のころより

[illegible]

是より其のまじりて名と求むる異
 明るゝと^愛と好むと^故ふと^一とを^心と^も
 二

犀川之東

梅うゑん信うゑんを味うん

梅菴

そ月居雨も無し

有真

馬術はあやもろく

楚丘

二丁かまそく探求の隅

我松

こころ種すゑお生えくま

左貞

日の忘くくの地は胡生

二竹

洞春之郭の聲騰る

其迄

之下とや文の束子朽

未松

小聖を侵し火消す

う枝

園の聲の餌とあむ

市川

秋の月白銀叩く

市燕

ふさふさ千斤を

社麻

風さす襦袢を

有真

輝はく和雨のふ

標庵

別 ニ 雷 カ の ノ 川 ハ 急 キ る ニ	二升
い ハ 優 ホ る ニ 再 イ 從 コ 子 ハ ま シ	北 ノ 丘
生 キ 際 ニ 理 ニ 屈 ニ 待 マ つ ニ 標 ハ 松 ノ 也	赤 ノ 松
日 ノ の ハ 入 ル 海 ノ く ニ さ ニ 溜 ル 波	左 ノ ノ
二 慢 ニ と 上 ぐ ニ 碇 リ の ハ 聲 ハ き キ く	巾 ノ 川
ち ノ の ハ き キ と し つ ニ と ハ き キ る ニ 月	左 ノ ノ
と ハ お ハ や ハ る ハ 人 ノ の ハ お ハ や ハ い ハ ひ ハ あ ハ ん ニ	赤 ノ 松
と ハ き キ け ル 夕 ノ ハ ハ 心 ハ 憂 ハ ふ ニ	左 ノ ノ

濱 ノ も ハ き キ る ニ 一 ニ 龍 ハ ぬ ル 海 ノ 市	社 ノ 赤
箕 ハ い ハ と ハ き キ し ニ 餘 カ の ハ 鳴 ル く	赤 ノ 松
二 ノ 門 ハ と ハ き キ る ニ と ハ 連 ル く ニ 月	北 ノ 丘
お ハ 字 ハ の ハ 事 ハ ハ ハ 海 ノ の ハ 事 ハ	二升
阿 ハ も ハ よ ハ お ハ 記 ハ る ニ 根 ハ 事 ハ の ハ 標 ハ 松 ノ 也	左 ノ ノ
海 ノ の ハ い ハ ら ハ り ニ 中 ハ 風 ハ 上 ハ の	赤 ノ 松
系 ハ も ハ い ハ け ル し ニ と ハ お ハ と ハ き キ る ニ	左 ノ ノ
石 ハ 山 ハ 事 ハ の ハ 板 ハ の ハ く ニ ハ ハ 小	有 ノ 貴

世の中をい使ひふりし内漕ぐ 之皮
雨ふふなる新おし 雨ふ 市川
陽日ふむとをいれはふふふ 市川
屋上の往路 往路 往路
あふふふふふのふふの細 往路
標尾 窓のふふふふふ 標尾

お標尾ふふふふふ 標尾

